

令和4年度 研修計画

1 研究主題

互いのよさを認め合い関わりながら学ぶ子どもの育成
～聴いてつなげて話し合っ、考えを深める授業づくり～

2 主題について

本校では、昨年度、研究主題「互いのよさを認め合い関わりながら学ぶ子どもの育成～聴いてつなげて話し合っ、考えを深める授業づくり～」のもと、授業改善に取り組んできた。児童が意欲的に考え、互いの発言を認め合い、発言をつなげながら考えを広げたり深めたりして、みんなで学ぶ楽しさに喜びを感じる姿を目指してきた。自分の考えを発言しやすくするためにペアやグループなどの学習の場を設定したことで、話し合いが活発になり、その中で感じた疑問を質問したり答えたりするなど少人数での話し合いスキルは高まってきている。しかし、一斉の場での考えを広げたり深めたりする学び合いは、まだ十分であるとはいえない。

そこで、今年度も昨年度の研究主題を継続し、少人数での学び合いにとどまらず、一斉の場でも互いの考えのよさを認め合い、疑問に思ったことを質問し合い、児童同士、または教師のコーディネートで発言をつなげながら自分の考えを広げたり深めたりして学びを実感できる児童の育成を目指していく。友達と関わり合いながら児童一人一人が笑顔で「できた。分かった。」と自分の学びを感じ、達成感を味わうことで、学校目標である「笑顔満点！西根っ子～たのしい うれしい みんなの学校～」の具現化が図れるように研究を推進していく。

3 研究の仮説

- (1) 児童に働かせたい「見方・考え方」を明確にした単元構成や授業展開を工夫することによって、課題を見付け自ら考えようとする意欲をもつ児童が育つであろう。
- (2) 話し合いの場で、児童同士で質問し合ったり、教師が発問・問い返し・発言の価値付けなどをしたりすることによって、話し合いながら考えを広げたり深めたりする児童が育つであろう。
- (3) 今までの学びとのつながりや自己の変容を振り返ることによって、児童は学び合う楽しさを感じ、課題解決の喜びを味わうことができるであろう。

4 目指す子どもの姿

- (1) 課題を見付け、「考えたい」「解決したい」と思う子ども
- (2) 友達と関わり合い、考えを広げたり深めたりする子ども
- (3) 友達と学び合い、「分かった」「できた」と感じる子ども

5 研究の重点

児童が考えを広げたり深めたりする指導の工夫

- ・「見方・考え方」を明確にした単元構成や授業展開
- ・既得の知識と他者の知識や思考（言葉）をつなげる学び合いの充実
- ・自己の変容の自覚のための振り返り

6 共通実践事項

- (1) 「秋田の探究型授業」の基本プロセスをベースにした授業展開
 - ①課題意識を高める導入の工夫
 - ・子どもの問いを生かした課題（めあて）を設定する。
 - ・目指す児童の姿に向かうことができるように、課題とまとめの整合性を図る。
 - ②ねらいの達成につながる学び合い（聴く・つなげる・話す）の充実
 - ・聴き方（自分の考えと比べて聴く）や話型（友達の考えを受けとめる・つなげて話す・友達の考えを取り入れて自分の考えを見直す）を提示し、対話力を高める。
 - ・ペアやグループの話合いでは、自分の考えと友達の考えを比較検討し、友達に「問い」を発したり、友達へ説明したりできるようにする。
 - ・学級全体の話合いの場面では、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせたねらい達成につながる発言を称揚したり、児童の考えを広げたり深めたりすることにつながる発問や問い返しをして児童の発言を価値付けたりする。
 - ・相手意識をもった声量、スピード、パブリックな話し方を身に付ける。タブレットで録画し検証する機会を設ける。
 - ③一人一人が学びを実感できる振り返り
 - ・振り返りの視点を明確にし、今までの学びとのつながりや自己の変容を自覚させる振り返りにする。
- (2) ユニバーサルデザインの視点による支援の工夫（「分かった」「できた」と感じる子どもに）
 - ①効果的な情報提供になるように学習内容や考え方・資料等を図解や画像などの視覚情報として示す。（視覚化）
 - ②学習目標や内容を絞り込んで授業展開をシンプルにする。（焦点化）
 - ③「分かった」「できた」が実感できるようにまとめ方のモデルを提示し、理解を揃える。（共有化）
- (3) 効果的な ICT の活用
 - ①挿絵や写真等の拡大・縮小、画面への書き込み等を活用して、分かりやすく説明することにより、児童の興味・関心を高める
 - ②デジタル教材等の活用により、児童が自らの疑問について深く調べたり、自分に合った進度で学習を進めたりできるようにする。また、一人一人の学習履歴を把握することにより、個々の理解や関心の程度に応じた学びを構築する。
 - ③タブレット PC や電子黒板等を活用し、教室内の授業や他地域の学校との交流学习等において、児童同士による意見交換、発表などのお互いを高めあう学びを通じて、思考力、判断力、表現力などを育成する。
- (4) 自己の変容の自覚のために
 - ①板書とノートの整合性を図り、学年や教科に応じて系統的にノート指導を行う。友達の意見を聴き、メモするなど、考えを深めるノートづくりの指導をする。（ノートに記録する、メモを取るなど、学習活動の中に「書くこと」を意図的に位置付ける。）
 - ②発達段階に応じて、振り返りの視点を具体的に示す。
- (5) 授業以外における「学び合う」力の育成
 - ①詩の暗唱を聴き合ったり、詩の意味を考えたりする実践を通して、表現する力の育成を図る。
 - ②「読書の時間」（10 分間）を通年で設定し、読書活動の充実を図り、言葉の土台をつくる。（読書コーナーの充実、読書通帳への記録）
 - ③国語辞典を学級に常備し、「辞書引き学習」で様々な言葉に触れさせ、語彙を増やす。
 - ④本校の特色である全校音楽やミュージカルの実践を通して、豊かな表現力の育成を図る。

7 教科の研究主題及び重点

教科等	研究主題・重点
国語	『言葉に着目して、進んで考え、伝え合い、考えを深める子どもの育成』 ・身に付けた力を活用する場面を位置付けた単元構成と授業展開の工夫 ・「言葉による見方・考え方」を働かせ、互いの思いや考えを伝え合い、思考を深める場の工夫 ・目的や意図に応じて、図書や ICT を活用し、必要な情報を取り出して、課題解決に生かす主体的な学びの保障
社会	『社会的な見方・考え方を働かせ、多面的・多角的に考察する子どもの育成』 ・資料や体験から、驚きや問いをもたせ、学習課題につながる導入の工夫 ・調べたことを論理的に説明したり考えたことを基にした話合いを取り入れたりする言語活動の充実 ・新たな問いを見いだすために、社会的事象の特色や意味を考え、自分の言葉でまとめ振り返る活動の充実
算数	『数学的に問題発見・解決する過程を通して、主体的に問題解決をする子どもの育成』 ・児童の問いを生かした課題設定と見通しの場面における教師の関わりの工夫 ・自分の考えや集団の考えを広げ深めるための比較・検討、関連付け、ICT の活用等の工夫 ・学びの実感につなげるための評価場面や評価方法の工夫
理科	『観察・実験の結果に基づき、科学的に思考したことを適切に表現する子どもの育成』 ・気付きや疑問を顕在化し、自ら問題を見いだすことができる学習課題の設定 ・根拠のある予想や仮説を基に、観察・実験の結果と比較して考察できる学習展開の設定 ・互いの考えを比較・検討したり、総合的に考えたりする話合い活動の工夫 ・理科を学ぶことの意義や有用性を実感し、獲得した知識や技能を活用・発揮できる活動の工夫
生活	『具体的な活動や体験を通して、人、社会及び自然との関わりを深め、気付き考える子どもの育成』 ・一人一人の思いや願いを育み、主体的に活動し、表現できる支援の工夫 ・気付いたことを基に考えることができる多様な学習活動の工夫
音楽	『自分の思いや意図をもって感じ取ったり考えたりしたことを表現する子どもの育成』 ・「音楽的な見方・考え方」を働かせて、表現したり味わったりすることができる教材や指導の工夫 ・自分なりの感じ方を表現や鑑賞に生かしながら、感じ方や考え方を互いに深め合う学習過程の工夫
図工	『想いをふくらませ、自分らしい方法で表し、造形活動を楽しむ子どもの育成』 ・形や色、イメージを豊かに捉えて発想を広げ、自分の思いを表現できる題材の工夫 ・感じ取ったことを伝え合う場を効果的に組み入れた学習過程の工夫
家庭	『具体的な実践を通して、豊かな家庭生活を工夫しようとする子どもの育成』 ・学んだ知識や技能を生活の中で活用できるための実践的・体験的な学習活動の工夫 ・つくる楽しさや活用する喜びを味わわせたり、思考を広げ深めたりするための資料や教材教具の工夫
体育	『運動の楽しさや喜びとともに、体力の向上に果たす役割の視点から、「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方ができる子どもの育成』 ・運動の特性や楽しさを実感するための知識と技能を関連付けた指導の工夫 ・考えの広がりや深まり、自分や友達の成長を実感する視点を明確にした話合い活動や振り返りの工夫
総合	『自ら設定した課題と向き合い、よりよい解決に向け、主体的に探究的な学習に取り組む子どもの育成』 ・学習対象との関わり方や出合わせ方等の工夫（課題の設定） ・収集目的の明確化、体験を通じた情報収集の設定（情報の収集） ・情報を吟味することの必要性について考える場や整理・分析する方法を決定する場の設定（整理・分析） ・相手意識・目的意識の明確化、伝えるための具体的な方法を選択する場の設定（まとめ・表現）
外国語 外国語 活動	『自分の考えや気持ち、事実などを進んで伝え合おうとする子どもの育成』 ・相手や他者に配慮しながら、伝えたい、聞きたいという思いを高めることのできる題材の設定 ・考えを整理したり繰り返し表現したり伝え方を再考したりできる活動の展開の工夫 ・コミュニケーションを図る楽しさを体験し、習得した知識や技能の必要性や有用性を実感する活動の工夫

8 年間研修計画

研修の流れ		月	日	曜	主な研修内容
P	研修の方向の確認 ・研究仮説、検証計画、 研究内容、具体策の検討 年間計画の立案 ・年間研修計画の確認、 修正	4	4	月	今年度の研究の方向について 【全体研修】
			14	木	特別支援教育推進委員会 【全体協議】
			27	水	ICT研修 【全体研修】
		5	12	木	児童を語る会 【全体協議】
			26	木	カリキュラムデザイン・年間指導計画の確認 【個人研修】
D	検証のための実践Ⅰ ・授業実践、授業研究		2	木	研究協議のもち方について 【全体研修】
		6	6	月	算数 指導案検討会 【全体研修】
			24	金	算数 指導主事計画訪問 【全体研修】
C	児童の意識調査 ・自己評価、相互評価	7	7	木	ICT研修 【全体研修】
			21	木	特別支援推進委員会・児童語る会 【全体協議】
A	年間研修計画の見直し	8	18	木	諸講習等の伝達研修 【全体研修】
			25	木	これまでの実践の振り返り 【全体研修】
			29	月	国語 指導案検討会 【全体研修】
		9	14	水	国語 指導主事計画訪問 【全体研修】
			29	木	前期の振り返りと後期の取組 【全体協議】
P	研修の方向の再確認 ・具体策の見直し	10	3	月	特別支援推進委員会 【全体協議】
D	検証のための実践Ⅱ ・授業実践、授業研究 県学習状況調査に向けて		20	木	Ⅱ期の実践について 【全体研修】
		11	21	月	特別活動 指導案検討会 【全体研修】
C	児童の意識調査	12	1	木	県学習状況調査の採点・分析 【全体研修】
			7	水	特別活動 指導主事計画訪問 【全体研修】
			22	木	今年度の研修の振り返り・児童を語る会 【全体協議】
A	年間研修計画の見直し 仮説の検証とまとめ ・自己評価、相互評価 ・「西根プラン」作成 次年度の構想・計画	1	12	木	来年度の研究の方向について（プラン会議） 【全体協議】
			19	木	特別支援教育推進委員会 【全体協議】
		2	6	月	プラン会議Ⅱ 【全体協議】